

こころ病む人々への賛歌

作詞：川島焄三

<p>社会に馴染めない若者たち 悶々と続く底なしの沼 自責の念にさいなまれ 時に怒りの矛先を探す</p> <p>それは自らの罪なのか 自分への怒りなのか 隣人への怒りなのか 社会への怒りなのか</p> <p>何かのサイクルの自縛に絡まれ ブラックホールに吸い込まれるように もがけばもがくほどのいのちの泉涸れ 疲れ切って動く気力もなし</p> <p>優しくて控え目で自尊心に充ちて 堂々と生き続けたい どんなに難しいことであろうとも 一歩も引かない存在でありたい</p> <p>それは視点を変えれば お人好しで間抜けで自信過剰 人はそう思い苛立ち まさにいじめの対象となる</p> <p>嘘で固めてどやしつけ 先手を取る それが生き続けることの条件？ こころ病む人はそれを嫌い そこに徹し切れずに悩み続ける</p> <p>良心の呵責に耐えかね 自らがバラバラに砕かれ 自らの立つ地盤が揺らぎ 向かうべき目的も定まらない</p> <p>じっと耐えることの苦しみ 誰がとがめられよう その忍耐の見事さ 排除の論理は問題外</p> <p>メウビウス環帯のように ねじれて結びつき 反対に動き複雑に絡み合い 時間と共に螺旋状に展開する</p>	<p>親は子の反面教師 子は親を否定し成長し 独自の世界を創造し 独立独歩の人となる</p> <p>父は母の想いに疑問持ち 母は父の無責任さを責め 社会は親の教育を咎める 人の不幸は蜜の味</p> <p>誰が生んでくれと頼んだか 地球だっていつ駄目になるか 核戦争だっていつ起こるか そこにどんな夢があるのか</p> <p>そこで努力するのが人間！？ 説教する人たちのめでたさよ どうぞ頑張ってください 私はまっぴらご免です</p> <p>あちこちから聞こえてくる それはあなたの声？ いや あなたの声？ いや 自分の心の叫び！？</p> <p>その心の叫びに耳ふさぎ 快樂の海に溺れるのも もっともらしい説教も 私の好みに合いはしない</p> <p>この世がどれほど価値あるか さあ 見せてくれ！ 私の好みに合えば 嬉々として生き続けられよう</p> <p>この世の底の底までも 見据えて耐えるその力 そこから生まれる熱きもの 迸り出るいのちの言葉</p> <p>涙とともに溢れ出る あなたとあなたとあなたを結ぶ 私とあなたと彼と彼女を結ぶ 見えない透明な絆</p>	<p>ひとつの言葉が私を傷つけ ひとつの言葉が私を救う 怒りの言葉が愛の言葉に 変換される無限なる世界</p> <p>誰がそれを語るのか 誰がそれを聞くのか ごまかすことの出来ない 純粹無垢なあなたの言葉</p> <p>様々な音になって聞こえてくる ピアノ・ヴァイオリン・フルート・オーボエ クラリネット・ティンパニー・チェロとバス すべてが調和してハーモニーとなる</p> <p>音は色になって変容する 真っ赤な太陽新緑の木々と草花 真っ青な海と空 黒々とした豊かな大地 そこに不協和音と奇形はない</p> <p>それこそが真実の世界 目指すべき目的の王国 幼な児の夢多き憧れの日々 何処に消えてしまったのか</p> <p>苦しみの嵐の後に かすかに見えてきた 光の束 人々の心に徐々に拡がる</p> <p>大きな愛の輪になって 苦しみの底にうめく人々を救う 幸いなるかなこころ病める人々 あなた方は真っ先に救われる</p>
---	--	---